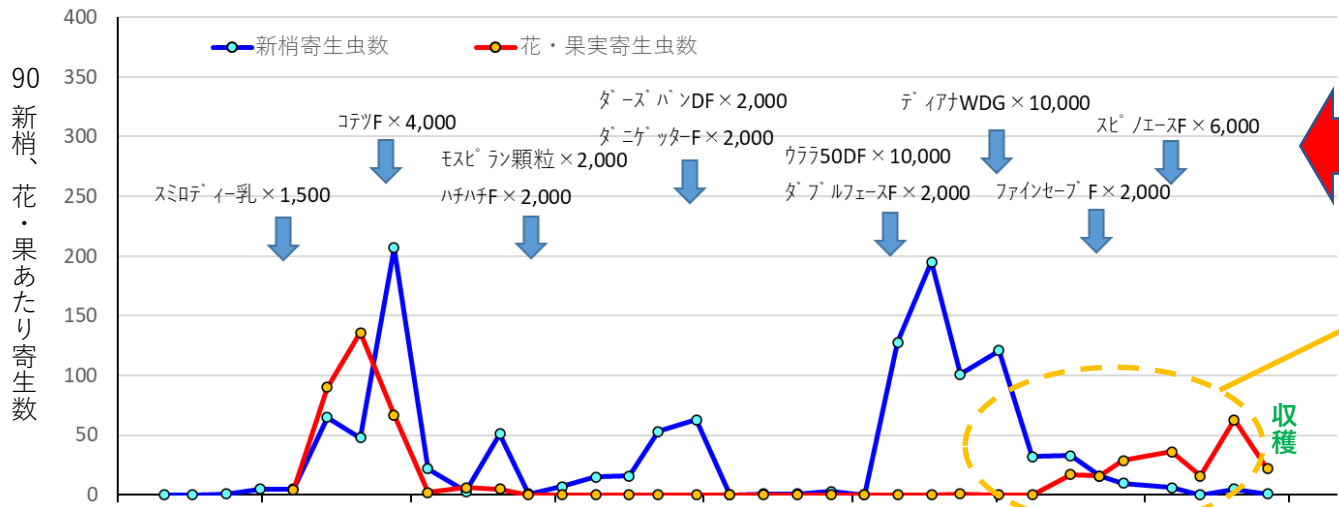


紅まどんなの施設栽培におけるミカンイロアザミウマの発生

ミカンイロアザミウマは、かんきつでは開花期と果実の着色期以外の加害例はほとんど報告がなかったが、慣行栽培を行っている愛媛果試第28号（紅まどんな）の雨よけ施設内で、開花から収穫までの間に継続して発生し、枝葉や花、果実を加害していることが確認された。また、冬季においても樹体上で幼虫が発生しており、**ミカンイロアザミウマは年間を通して紅まどんなを加害し、樹体上で繁殖することが可能**であると考えられた。更に、調査を行った施設で繁殖する個体群は**高度な薬剤抵抗性を備えている**ことが示唆された。

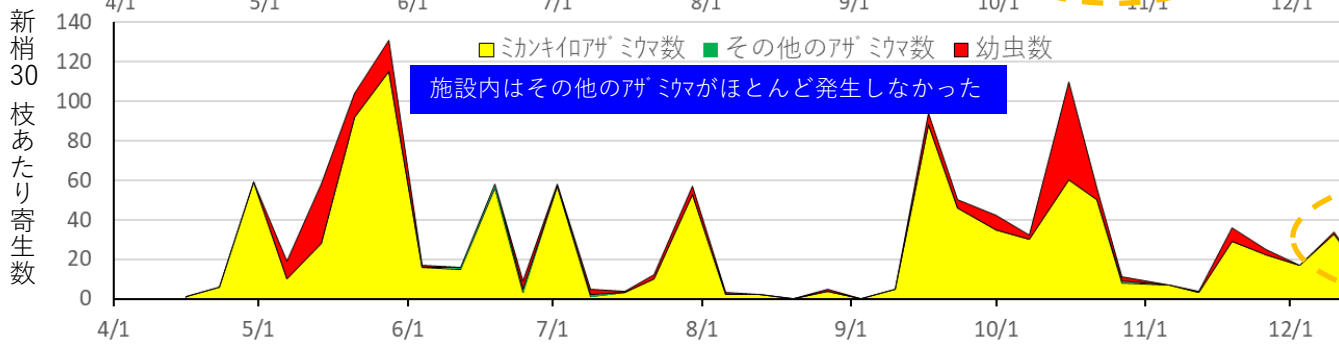


殺虫剤を散布しても果実被害を防げなかった
(調査樹3本の被害果率83.3%)

着色直前の9月中下旬頃から果実への本格的な寄生・加害が始まる



写真 新葉を加害するミカンイロアザミウマ(左)と着色前の被害果(右)



収穫後も枝に寄生し、幼虫の発生も確認されることから、冬季においても繁殖している可能性が高い



写真 ミカンハグリガの加害痕に寄生するミカンイロアザミウマ幼虫

図 慣行栽培の紅まどんな雨よけ施設におけるミカンイロアザミウマの発生消長 (上図：見取り調査、下図：枝の叩き落とし調査 調査園は同じ)